聖書日課 『からし種』 2025.6.1－6.8

6月1日 （日） 使徒 20章	**「神とその恵みの言葉とにあなたがたをゆだねます。この言葉は、あなたがたを造り上げ、…すべての人々と共に恵みを受け継がせることができるのです」（32節）。**「恵みを受け継ぐ」とは「バトンを受ける」こと。私たちより先に神の言葉の働きに仕えた大勢の証人の恵みの足跡を見つめつつ、私たちをキリストの体に造り上げる恵みの言葉を大切に受けていこう。
2日 （月） 使徒 21章	**「彼らは皆、妻や子を連れて、町外れまで見送りに来てくれた。そして、共に浜辺にひざまずいて祈り…」（5節）。**パウロのエルサレム行きは、彼を通してキリストに導かれた友たちとの別れを意味していた。浜辺に深く刻まれた人びとの膝の跡。命の言は人間的悲しみを超えて世界に持ち運ばれていく。遠く日本の私たちにも届けられた命の言の長旅を想う。
3日 （火） 使徒 22章	**「わたしたちの先祖の神が、あなたをお選びになった。それは、御心を悟らせ、あの正しい方に会わせて、その口からの声を聞かせるためです」（14節）。**サウロは「偉大なサウル王」にあやかった名であり、パウロは「小さき者」の意味。「偉大な王」から「小さき者」へ。十字架の主を知らされたパウロは「小さき者」として主の御名と御業を賛美する人生に導かれた。
4日 （水） 使徒 23章	**「その夜、主はパウロのそばに立って言われた。『勇気を出せ。エルサレムでわたしのことを力強く証ししたように、ローマでも証をしなければならない』」（11節）。**パウロの宣教はどれほど主の励ましに導かれてきたことか。ダマスコ途上の旅でコリントの迫害の中で、主ご自身がパウロに語りかけ、慰め、励まして下さった。私たちは誰の励ましに立って歩むのか。

メール配信登録メール　senfkorn.obc@gmail.com　　大井バプテスト教会
メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課『からし種』2025.6.1－6.8

5日 （木） 使徒 24章	**「こういうわけで私は、神に対しても人に対しても、責められることのない良心を絶えず保つように努めています」（16節）。**パウロは「その男を殺せ！」と激高する民衆を前にしても、千人隊長や総督の権威を前にしても、ブレることがない。彼の中に「主イエスからいただいた、神の恵みの福音を力強く証しする任務」（20：24）が明確だったからだろう。
6日 （金） 使徒 25章	**「このイエスが生きていると、パウロは主張しているのです」（19節）。**ローマ総督にとってパウロは不思議な囚人だった。十字架で処刑されたイエスにどうしてここまでこだわり、自分の命さえ惜しくないというのか。残念ながらパウロの言葉がフェリクスの心に届いたとは思えない。しかしパウロが主の証人として最後まで立ち続けた誠実さがここに刻まれている。
7日 （土） 使徒 26章	**「王ばかりでなく、今日この話を聞いてくださるすべての方が、私のようになってくださることを神に祈ります」（29節）。**パウロにとっては裁判の被告席が主の証人としての大切な証しの場であった。パウロは自分がどれだけの働きをしたかではなく、神が何を語りかけ、どんな恵みを見せてくださったかを懸命に語る。わたしもまた神の恵みを語る者とされたい。
8日 （日） 使徒 27章	**「ですから、皆さん、元気を出しなさい。わたしは神を信じています。わたしに告げられたことは、そのとおりになります」（25節）。**命の危機に直面している時も、神のみ業に信頼し、神から示された自らの使命を確信しているパウロの姿は、共にいる人々にとって、大きな励ましとなっただろう。主に信頼し、自分自身も周囲の人をも励ますことのできる信仰を祈り求める。

大井バプテスト教会